

和歌山県・和歌山市県市政策連携会議 議事録

【日 時】 平成26年10月30日（木）9：15～10：45
【場 所】 県庁北別館2階 予算・決算特別委員会室
【出席者】 県：知事及び関係部長等
和歌山市：市長及び関係局長等

司会 (県企画政策 局長)	それでは、ただ今より、知事と和歌山市長による、政策連携会議を開催いたします。本日の会議は、和歌山県と中核市である和歌山市が今後さらに政策連携を深めていくために開催するもので、尾花市長の就任後初めての開催となります。 お手元には、会議次第とともに配席図と出席者名簿を配布してございます。出席者の紹介は省略させていただきたいと存じます。 では、開会にあたり、尾花市長からご挨拶をお願いします。
尾花 和歌山市長	おはようございます。仁坂知事にはご多忙の中、県市政策連携会議を提案させていただいたところ、心良く受けていただき本当にありがとうございます。今、和歌山市は、若者の流出、また中心市街地の衰退、少子化ということで、待ったなしの課題を抱えております。こうした課題を一日も早く解決するため、和歌山市としてこれまで十分ではなかった取組も整理し、そのうえで、本日、県と市が力を合わせて連携させていただくことによって、一日も早く和歌山市を元気にしていきたいと思っております。本日の会議が和歌山市の未来にとって有意義な第一歩となりますことを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。 本日はどうもありがとうございました。
司 会	ありがとうございました。 続きまして、仁坂知事お願いいたします。
仁坂知事	今日は、尾花市長をはじめ、皆さん来ていただいて、本当にありがとうございます。実は、この県市政策連携会議の開催は、大橋市長の時代に、皆さんご存じのとおり、私は、「こんなんでしょうか」と提案させてもらったものなんですね。はじめは、「市長は乗り気です」と聞いていたんですが、その後、「何か反対もあってアカンようです」と。あるところで、大橋さんに、「あれどうですか」と言ったところ、「何故そんなことしなければならないのか」と言って大変怒られまして、私にとっては中学の先輩ですから、これはアカンわ、と思って諦めていたのですが、今回、我々が改めて提案をしたわけではありませんでして、市から提案がありまして、我が意を得たりと思っているところであります。何でそういう風に思ったかなんですが、大橋さんに、いろんなことをトップ同士で提案しあったり、ご提言したりしたんですけど、例えば、「役人ができないと言っているので、できません」との話が結構返ってきました。私も役人をやっていたので分かっているのですが、役人は一生懸命に仕事をするのですが、トップとの関係でどこかでつかえる時があるんです

ね。逆に役人の陥りやすい癖とか、或いはそれを解消するにはどうしたらいいのか、長い人生で勉強しまして、一言で言うと、みんなで力を合わせて、万機公論に決して、最後はトップが責任を持てば良い。それで、万機公論の場としてこういった場があっても良いのではないかとそのとき思ったんですけど、そういう形で、この会が機能したらいいなと思います。それで、私も県庁のトップです。県の役人も何か気位の高そうな者がおりますが、何でも色々な事情を説明したり、意見を言ったり、たまには批判したり、そういうことは大いにあっていいんですね、今日は公開の下で行われております。従ってこれまた、我々の組織の理論として考えると、全て公開の場で意思決定できる訳ではありません。内部的にも今日聞いたことを基にして、部内で、「そういうことを言っても」とかですね、なかなか言いにくいことが公開の場であれば真摯に言えることもあります。従ってお互いに言うことは聞いて、それぞれ二人で全部ここで決める必要がありませんので、ある程度のサジェスションはしつつ、それぞれが責任を持って決めたら良いと思っています。そんな形で、肩肘を張らず議論できれば良いと思っています。私も色々と耳に痛いことを言わせてもらいますので、皆様も言っていただいて全然構わないと思います。

本日は、よろしくお願いします。

司 会

ありがとうございました。

それでは、ここからの議事進行役につきましては、県企画部長よりさせていただきます。

よろしくお願いします。

県企画部長

はい、県の企画部長の野田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まずはじめに、尾花市長から和歌山県・和歌山市政策連携会議の提案書につきまして、一括してご説明願います。

尾花市長

はい、そうしたらですね、心のこもった提案書を用意させていただいております。まず目次を開いていただいて、大きくは4項目ございます。まず、一つは「産業を元気に」、また「まちを元気に」、「人を元気に」、最後に「その他」ということで県と市で重複するような類似施設だとか業務の連携・統合について書かせていただいております。

それで、早速ですが、中身を要領よく説明させていただきます。産業の分野ですが、今回は、ほとんど観光の分野を出させていただいています。一つは中央卸売市場の観光市場化ということで、中央卸売市場というのは、なかなか一般開放ができない、法律上できないということになっておりまして、その中で『道の駅』を併設して観光市場化したいという思いで、提案させていただいています。ちょうど中央卸売市場の前が臨港道路、港湾道路になっていますので、『道の駅』にするためには、道路法上の道路にする必要があるということで、その辺について県のご協力をお願いしたいと思っています。それと併せて『道の駅』については道路の管理者との一体型で整備していきたいという風に思っています。是非、その点よろしくお願い申し上げます。

二つ目が、サイクリングロードの整備ということで、これは、仁坂知事も海・山・川ということで言われている中の、和歌山市バージョンという感じです。南はマリナーシティから北は加太、更に岬町とも、また大阪府とも連携をとって、大阪までということで、沿

岸部を整備していきたい。できるだけ和歌山の海岸線を活かした形で、サイクリングロードを整備して観光にも資するような、そうした自転車道にしていきたいという風に思っています。

三つ目は、観光振興ということで、グラフを入れているんですが、仁坂知事が就任されてから海外観光客の誘客ということで取り組んでいただいているおかげで、年間宿泊者数、国内でも最近では元に戻り出したということで伸びています。赤が外国人宿泊者数ということで、平成23年度からはほぼ3倍4倍かな、371%伸びていまして、やはりLCCの就航があったりして、和歌山への外国人観光客が非常に伸びているということで、これから国内外を問わず積極的に和歌山市としても観光客の誘客を図っていききたいと思っております。そんな中で、県と市が一体となった観光施策を推進していきたいという風に考えてまして、新たなビューロー的な組織を設置していきたいと思っておりますので、是非、体制づくりにご協力いただければと思います。もう一つは、海外からの誘客ということで、和歌山市は今まではあまり取り組めていなかった部分なんですけども、是非、県の力をいただいて一緒になって海外からの誘客に取り組んでいければと思っております。

次が、4番目、企業誘致ということで、仁坂知事就任後の平成19年ぐらいから非常に県下全体では、立地企業が増えてます。棒グラフの赤が和歌山市内への立地企業なんですけども、ちょっと最近では、和歌山市内、われわれの努力不足もあるのと、なかなか土地がないというのもあったりして、和歌山市内への企業立地数が、平成24年・25年が0ということになっています。是非、この企業立地については、今後あらゆる企業を誘致していきたいと考えておりますので、情報の共有をお願いして定期的な県市連絡会議をお願いしたいな、というのと併せて、誘致活動についても一緒にお願いさせていただければと思っております。

次が、大きな2つ目の「まちを元気に」です。まちなか再生ということで、6ページあります。これは知事も常に言われている中心市街地が空洞化してきているということで、それが全体的な市全体の活力の低下につながっているということで、これは今までの反省も込めて和歌山市のまちなか居住をしっかりとやっていきたいと思っております。一つは南海和歌山市駅周辺地区。ここは公共施設、市民会館、図書館、博物館色々な公共施設が、耐震化、まあ博物館は耐震化できているが、市民会館、図書館というのは、今後、耐震化するか建替するか、そういった事を検討していかなければいけないということで、市駅周辺について再開発をやっていきたい、まちなか再生をやっていきたいと思っております。もう一つの和歌山市の玄関口であるJR和歌山駅周辺ということで、これもやはり和歌山市の玄関としてふさわしい顔になるような商業だとか居住機能から構成されるような市街地再開発事業をやっていきたいという風に思っています。三つ目は、和歌山城周辺についても伏虎中学校だとか児童女性会館だとか、和歌山市の公共施設の建替も含んでいます。児童女性会館は撤去して、知事がおっしゃっていただいています『門長屋』の移築なんかが一番有望だという風に考えているんですけども、和歌山城周辺の魅力を更に高めていきたい。それと併せて、和歌山城を一周する歩道が狭い部分もあったりして、県道になっている部分もあるので、なんとか広げて住民がスッと一周できるようなそういった整備をお願いできたらな、という風に思っております。あと大学誘致ということで、書かせていただいているんですけども、一つは、県立医科大学薬学部の新設を要望させていただきたいと

思っています。併せて、いろんな大学が郊外へ出て行ったこともあって、まちなかに教育機関が少なくなっているということで、まちなかへの大学誘致についてもお願いできればと思います。

次の8ページですけど、これは、特に反省も含めて市街化調整区域の土地利用のあり方ということで、市街化調整区域内が市の緩和条例でかなり宅地開発が進んでいます。これ以上の宅地開発を何とか止めたいということで、今やっているのは、駅周辺に串団子状に規制圏を造っていくということと、今までは50戸連たんでその接続した部分の開発を認めていたんですけど、それは非常にこれからは限定的に扱っていききたいという風に考えていまして、その辺について、周辺市町村も含めたようなあり方について連携をお願いできたらという風に思っています。それと和歌山南インターの周辺については、これからあそこの土地をどう扱うか、農業にしる工業にしる生産性の高い土地にしていきたいと思っていまして、住宅とか商業では広めないけれども、できるだけ生産性の高い土地利用を考えなければと思っておりますので、この点についても、是非、連携できればと思っております。

続きまして、9ページですけども、京奈和自動車道が今、阪和道にジャンクションで和歌山に引っ付くということになっていますが、第二阪和国道が来年開通してくる。第二阪和国道というのは非常に和歌山市にとっても利便性の高い道路で、京奈和道をさらに第二阪和で結びつけば、和歌山市中心部で非常に利便性の高い交通アクセスが完成してくることもあって、是非、京奈和自動車道の延伸を、これは国にお願いするということになるんですけども、来年度、調査費なりを要望していきたいと思っておりますので、ご支援いただければという風に思っております。

次が10ページでございます。市内の幹線道路については、県と市でいろいろ分担してやってきて、来年の国体に向けてはかなり整備されてくることになります。また、平成30年度ですか、31年度だったかな、南インターまで南港山東線が伸びるということで、4車線道路が郊外の部分でかなり充実してくることになります。整備が残っている市街地の部分で非常に渋滞等生じている部分があって、これまあ3路線を黄色で入れさせていただいています。北から有本田尻線、ちょうど和歌山駅の裏側、黒田のところを南北に通る道路。それと湊神前線。それと南インターに直結して国際拠点港湾の和歌山港等を結ぶ南港山東線。この3区間で狭隘になっていて整備が急がれているところなんですけども、従来の県市分担でいくと3つとも市になっているんです。何とか南港山東線を、これは幹線道路として港湾とインターを結ぶ4車線道路ということで幹線的な機能もありますので、県でお願いできればということをお願いできればと思います。

11ページが、公共交通機関の充実ということで、貴志川線についてここには書かせていただいていますけど、貴志川線に限らず加太線、南海本線、JRこういったところの公共交通機関を、さらに充実させていきたいということで、特に貴志川線については、新たなあり方について今、検討していて、その中の一つは、JR和歌山駅貴志川線のバリアフリー化をすることを予定しており、これは県市連携をお願いしたいと、それと併せて、バリアフリー化に伴って何とか市駅への貴志川線の乗入れ、これは県の方でも南海加太線、貴志川線の相互乗入れということでご検討していただいているんですけども、もし可能ならば先行してでも乗り入れの問題を進めていただければなと思っています。それとJRに

しろ私鉄にしろ駅前については非常に狭いところが多いし、アクセスが不便なところが多いので、これからもっと交通結節点機能を充実させるためにも、駅前広場と駅の結節機能を充実させていきたいと思っていますので、連携をお願いできればと思っています。

それでは、大きな3つ目の「人を元気に」ということで、13ページ目、9番少子化対策ということで挙げています。和歌山市の合計特殊出生率は、若干は改善されてきています。全国に対してちょっと高い1.49ということで改善されてきているんですけど、2.1とか2.4とかまではまだまだ低いということで、これも出生率を上げていくということが重要ということ。もう一つは、県外への進学者が全国で最も高いということで、県外へどうしても若者が流出してしまう要因になっています。それと一番下のグラフがやはりそれを裏付けるようなデータなんですけども、和歌山市の若者がちょうど大学に行く年代が減っている、流出率が高いという風なデータになってます。今、地方創生本部でも少子化対策というのは国の方でも考えていただいているんですけども、市からも積極的に提案していきたいと思っていて、県の方と併せて、少子化対策を充実させていただければという風に思っています。具体的には、3つ挙げているんですけども、一つは子育てにかかる経済的負担、それと、子育てと仕事の両立が可能な環境づくりということ、もう一つは、若者の流出もそうなんですけど、大学がなかなか和歌山に無いということで、県外へ流出してしまうということもあって、大都市圏に集中している大学とか研究施設の地方移転を進めるような施策の推進、3点目はですね、若干矛盾するといえば矛盾するんですけども、医療とか福祉、介護、教育の現場では、逆に労働力が足りないというような状況です。就職が無いということがある一方で、労働力が不足しているという職場があって、そういったところでは、職場環境が厳しいということがあって、介護士さん、看護師さん、保育士さんといった職種になかなか就けられないということもありますが、こうした職種での人材育成をしていって、市内に留まっていだけるような施策、たとえば、高等教育機関を充実させて、介護士さん、看護師さん、保育士さんに就きたいよ、というようなことをできないかなという風に考えていまして、連携をお願いしたいなと考えています。

次が、10番で教職員人事権の移譲ということで、この前、中央教育審議会からの、都道府県から市町村へと人事権を移譲する方向が望ましいという提言を受けて、地方分権改革だとか閣議決定においても、中核市に権限移譲してもいいんじゃないかという風にいただいているんですけども、これは周辺市町村とのバランスとかいろんな問題もあってなかなか一挙に行かない問題だとは思っているんですけども、今後、協議の場をお願いできればという風に思っています。

11番が防災対策についてですが、一昨日ですか、知事の方からも今回の3連動地震及び南海トラフ巨大地震の被害想定ということで出されていて、南海トラフの巨大地震については逃げなかった場合、和歌山市の死者数は、県下の2割ほどあるということで非常に深刻な問題であると思っています。知事が言われるとおり、まず逃げるのが重要で、そういった施策を積極的に進めたいと思っております。今後、県とも連携させていただければとも思っています。それと併せて、和歌山市の総生産というのは県全体の48%、5割に達するような生産拠点を持っております。これについては、例えば確率の高い3連動地震なんかは、非常に発生確率が高いということで、いつ襲ってくるかも分からない。そうした中で、そうした財産を守れるような、われわれは、レベル1、レベル2というこ

とで、南海トラフ巨大地震がレベル2で、3連動のような発生頻度の高いものはレベル1だと言っているんですけども、レベル1に対しては、できたらそういった財産を守るような、更にはレベル2に対しては、減災効果を持たすようなハードといったものも併せて考えていただければなという要望となります。よろしくお願いします。

17ページについてですけども、次の土砂災害です。この前、広島において悲惨な土砂災害があったんですけども、和歌山市内においても全体で危険箇所が842か所で、今、土砂災害防止法で指定されている土砂災害警戒区域が361か所ということで、半分に満たない状況になっています。当然、市としても一緒になってやっていきたいんですけども、是非、警戒区域の早期指定とそれと併せて、ハード整備が遅れている部分、特に土石流の整備率が悪いという風に聞いているんですけども、そういったハード整備についてもお願いできればなということで、これも要望となっています。

18ページですけども、避難路沿道建築物の耐震化ということで、今回、南海トラフ巨大地震は直下型になるということで、建物の倒壊率が非常に高い、和歌山市も全壊はあまり無いんですけど、半壊が非常に多いということで、逃げるのにかなり支障になる恐れがあります。そうした避難路については、できるだけ周りの建築物を耐震化していきたいということで、この辺についても、連携できればなという風に思っていますし、もう一つは、耐震対策緊急促進事業というのが平成27年度で終わります。県の方でホテル・旅館についてかなりペースを上げてやってもらっているんですが、これが平成27年度で終わることになっていきますので、何とかこれを1年でも2年でも延ばしていただければ、と国の方をお願いしていきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いします。

次は、紀の川河川敷の公園整備ということで、紀の川の河川敷においては農地として使われている部分がまだまだ残ってます。これはまあ、民有地になっておりますので、法的には当然権利はあるということで、難しい部分なんですけど、堤外民地をできるだけ河川敷として環境整備を行い、スポーツ施設が和歌山市内にまだまだ不足しておりますので、国の方にも河川の環境整備を要望していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、大きな項目4つ目ですが、県と市で重複する施設だとか業務について、できるだけ連携を図っていければと思っていまして、ここに挙げさせていただいたのは、例示的な話になるんですけども、一つは工業用水道についてですが、県と市で重複している部分がありますし、市で工業用水道を持っているというのは中核市の中でも無い状態です。難しい問題もあるんですけど、できたら統合してもらえたらなという希望があります。よろしくお願いします。それと図書館なんかは、連携・統合してやっていけないかなと思っ
てまして、いろんな難しい部分は図書館についてはあるんですけども、図書館についても連携を高めるところからやらせていただければなと思っています。特に、和歌山市の市民図書館は、耐震化はできていないということで、建替するか耐震化するか、そういった選択を迫られている時期ということもあって、県立図書館と上手く連携させていただければという風に考えています。

要望は以上であります。勝手な要望もございしますが、よろしくお願いします。

願います。

仁坂知事

今、おっしゃられたことについて、とりあえず、思うことを述べます。先にも言いましたけど、それが結論ではありませんので、今後、これをきっかけにして、色々検討していければ良いのではないかと思います。お互いにそれぞれ独立の機関ですから、またそういうことを前提にしてそれぞれ決めれば良いものだと思います。そういうことで順番に申し上げますと、中央卸売市場の観光市場化とは、本当に立派なことだと思いますので、何かできることを応援させていただければいいんではないかと思っております。

それからサイクリングロードの整備については、望むところなんです。今おっしゃられたのは、『海のサイクリングロード』なんですよ。それを和歌山市がこんなふうにするぞと言っていたのは大変ありがたい、と思っています。それから、あと、実は書いていないですけど、『川のサイクリングロード』がありまして、和歌山市が一番中心なんです、実は。紀の川市と並ぶ位にね。それで、そういうところもよく相談してやって行けば良いと。観光にPRしていかなければいけませんので、力を合わせてやっていけば良いのではと思っております。そして、また、サイクリングロードの指定だけだと危ない場合もあるんですよ、一般道を通ってはいけないことではないですけど、安全に通れるような面も上手く作って、実は、紀の川河川敷のサイクリングロード、『川のサイクリングロード』を思いついたのは、実はそこをずっと通ってしましたら、専用道路があると。そこは自動車が入って来ないんですよ。そうすると、あとは歩行者がありますけど、歩行者と自転車を分けて、自転車はスーと走り、歩行者は安全に歩けるようにすればね、これはかなりいけるなという風に思ったので、『川のサイクリングロード』を思いついたところで、全部は無理かもしれませんが、そういったセンスでやっていければと思います。

それから観光振興と企業立地は、本当に、力を合わせてやったら良いと思います。これに尽きるんですけど、例えば、和歌山県と和歌山市、或いは、そうですね、国と県、広域連合と県とかね、よく張り合って同じようなことをする向きがあるんですよ。上手いことやっていると聞けば、「よし負けるものか」と言って、別々にやっている。これは、馬鹿げた感じがするのでね。例えば、県がやっているプロモーションの中に市の方が入ってくだされば、リーチが長くなるし、共通経費を市は負担しなくてもよいことになりますよね。しかも、県の方から見れば、市の方が住民の方にすごく近い訳だから、まあそう想定されるので、力が強くなりますね。だからそういう意味で一緒にやったら絶対にいいぞと思っています。特に観光については、このデータを見せていただいて、和歌山市だけとて見たら、「これだけ増えている」と改めて思いました。考えてみれば、素質はあるんですね。それで、たまたま我々は東南アジアにガンガンやっているんですけど、それが極めて素質と上手いことマッチして、和歌山城に来たり、タマちゃんに来たり、そういうことで「しめしめ」というような感じになっているんで、良かったなと思っています。これからもっとやったらいい。ただし、一緒にやれと言っても、独自の動きがあっても悪い訳ではないと私は思いますので、独自の動きも付けたら良いのではないかと思います。

それから、企業誘致についても同じです。それと、和歌山市には実はものすごく素質が有ります。素質が有るんですが、色々とちょっと県も市もしくじっているところがあって、素質が十分出ていないところが有ると私は思っています。県の方は、コスモパーク加太に

ついて、財政の観点から或いは経済界に対してあまり過大な影響を与えてはいけないということなので、若干、糊塗した感じがあるんですね。その結果、コスモパーク加太を凍結しておいたら一番いいんだという雰囲気、私が就任した時に有りました。だけど、それは、我々の責任が顕在化しないというだけであって、和歌山市にとっても和歌山県にとっても決して良いことではない。元気が無くなる要因になるんですね。ですから、もういいから、何と言われてもいいから、とにかく開放だ。行革の時によく調べて、和歌山県にも埋蔵金があるんですよ。ちょっとだけですけどね。その埋蔵金はこのために使っているんだから、売れちゃったらこれで手当てするからと言って、県民の皆様に発表しました。というぐらいの感じでこれから行くぞ、という時に経済の調子が悪くなって、大物が出ない。大物について、2つ、3つ、本当に一生懸命したんですけど、「道が悪いもんね」と言って断られてしまった。よそに負けた。というのが実にあるんですね。しかし、これからだんだん良くなってくるんで、こういう素質のいいところ、閑空に近いし、それから人口もたくさん有るし、それから地価もずいぶんかなり安くなっているし、というような和歌山市を大いに売り込んでいったら良いのではないかと、思います。一方、市の方も若干失敗しているところがあると思うところがあって、北インターの土地ですね。これは、上手くいっているように見えますけど安売りをしましたね。こういうことをやるとどうということになるかという、後に副作用があるんですね。「あれだけ安売りしているんだからこっちも安くしてくれよ」という話になって、「安売りしないと行ってやらないぞ」と言って、どちらかという他の方が逃げてしまう。ということになるし、市内の他の所から移った方が実は得だとか、そういう事ができると、何をやっているのか分からないことになりますね。やっぱり周り全体を見ながら、自分の都合ではなくて、県民や市民の都合で物事を考えていかないといけないとこれは思っております。これは、いずれにしても協力してやっていけば良いと思うんです。

それから、まちなか再生と次の市街化調整区域の土地利用の在り方は、良く考えられていて、お話を聞いているだけすごいなと感じました。なんか、尾花市長が救世主みたいには私は見えてまいりました。ただしですね、これは本当に実行するときは大変な抵抗があってですね、市の皆様もですね苦勞をされると思うんです。県庁もそうなんですけど、力を合わせて正しいことは苦勞してでもやっていったら良いのではないかと。そもそも、D I D地区が3倍になっているようなところを4倍にも5倍にしたら、地価が下がるわけですから。みんな貧乏になっちゃうし、特定の人が喜ぶかもしれないけど、他の人が困ると。それから市がきつとですね、あんなでっかい所を次から次へと都市施設を造れと言われてたら破産しますよね。お年寄りがそのうち自動車を運転できなくなった時に困るし、これからは固めていくということを意識してやっていかないといけない時代であり、そういうことを市の方が言ってくれたことが大変ありがたいことだと私は思っております。

それから、特に個別の話で思っていることを言えば、貴志川線ですね、和歌山電鐵、あの電車に乗っておりますとですね、非常に不思議なことに、駅前が田んぼでちょっと横の方に開発されていると。あれでは、お客が乗らないんですよ。その駅前に近いところで歩いて駅に行けるように上手く造っておけば、その人達は、車よりも駅、電車の方が近くなるから公共交通機関を利用できるんですね。それから、和歌山駅の周辺でお酒を飲んでも帰れるんですね。ところが違う所に居ると駅まで行くのが大変だから自動車ですら

も行っちゃう。そういうことになる、何をしていることか分からないので、そういうことを考えて、きめ細かい線引きの見直しですね、そういうこともおやりになられたらどうか、と。それで、県は、農地転用の権限なんかがちよっと残されていて、他の線引きのところもあるんですけど、そういう残されているところは、市がつっかえ棒になって、協力申しあげたらいいんじゃないかと、たまには「県がうるさいから」と言っていたでもいいんじゃないか、と思う次第でございます。

それから、大学については、私の選挙も近いんですけど、だいたい、何かぶちあげますよね、世の中見ていたら。私はそんなことしません。ですが、実は、大学は和歌山に少なくなくて残念だとずっと思っています。それで、何とか大学を作っていきたいと思っていますけど、官業ですとだいたい失敗するし、それから民業も今から30年前ぐらいだったなら努力すれば大学が増えていった時代です。出来たんじゃないかと思うんですけど、私が就任した頃は大学が潰れかけていく時代なんですね、少子化で。そういう時に普通の大学なら無理だな、と。それで、正直に申しますと、看護大学を狙った。が、実習機関が少なすぎて、嫌だと言われた。それから、今狙っているのは薬学部です。しかし、打ち上げてもしようがないので、色々と内部的に検討しています。それは、学部を新設しても、県の財政が持つか、というのと県立医科大学の方が持つか、これも独立行政法人ですから、勝手なことが出来ませんよね。そういうことも考えなければなりません。まだ医大にも正式にはご相談していない位の感覚であります。では、作るとすると、大学が持ついろんな機能は再開発をどんどんやっていく時の種にすれば良いと私は思うんで、まちなかに勢いを取り戻そうとするならこういうのを使ったらいいんですよね。ですから、勝手に、市にご相談しておりませんが、勝手に伏虎中学校の跡なんかにもし作ったらどうなるか、というんですね、正直に言いますと勝手に検討させてもらっております。情熱はあるんですけど、自信がありませんので、やりますとは言いません。それからもう一つには、高野山大学があるんですね。「誘致するぞ」と言って、河内長野市が発表したんですね。それで、「待て待て」と。「そういう所に行くなら和歌山県内にもいろいろとあるぞ。協力するからこっちへおいで」と、今、言っているんですね。ただし、彼らも本当に目算があって言っている訳ではありませんので、これから高野山大学内で検討されると思います。そういう時の情報も取りながらですね、作るんだったら和歌山県内で、ひょっとしたら和歌山市でもあり得るんじゃないか、なんてなことを、相談していけば良いんじゃないかと、そんな風に思っています。

それから、道路整備についてはですね、第二阪和国道と京奈和自動車道との間を繋ぐと、尾花市長が言っておられることは、本当に、大事なことだと思っています。私もちょっと「しまったな」と思うことが。京奈和への入口が有料の口しかないんですね。で、早く造ってもわからないといけないので、つべこべ言っていると造れなくなるので、とりあえず先に造ってもらおうということで、途中で気がついたんですけど設計変更になったら10年ぐらい遅くなるんでね、言わなかったですけど、やっぱり、いきなり京奈和に乗りたいたいという気持ちがありますよね。そういうことを考えると、こういうところに延伸したらいいな、それから私が見果てぬ夢みたいに言っている紀淡海峡の話なんかもですね、実質、繋がっていく話なんだなと思いますので、是非、力をあわせてやっていきたいと思っています。

それから、市内の幹線道路については、決して非難している訳ではありませんけど、平

成18年から26年までで供用が出来たのは、お互いに分担していますが、県のところは10.5キロで、市のところは1.3キロなんですね。それで、非難めかしく言うてはないんですよ。そういうので、それがいいわけではないと思います。しかし、済んでしまったことはしょうがないので、これからどうやって本当に必要なところを急いでやっていくかを考えていかなければならないと思っています。これは特に我々がずっと言っていました都市計画の見直しというのをですね、最近、市の内部で非常に熱心にやったださって、まあ、大橋さんに、「次の市長にやってもらえ」と言われ、止められたようなんですけど。だけど、皆様のご努力には本当にありがたいと思っております。それで、そういう前提で申しあげますと、県の方が何で割と早く出来たのか、実は、コツがあるんです。これはですね、まずは、決然としてやるんだ、ということなんですね。それで、場合によっては、収用とか、事業認定をして収用するということをやらざるを得ませんよ、ということですね、覚悟を決めるということなんです。それは、全部トップの責任になりますから、尾花市長に責任を取ってもらって、皆さんがやったらいいじゃないかというふうに思います。もうひとつは、いろんなところから要望が来るんですね。「早く造ってくれ」と、ものすごく来るんですよ。ところがですね、その同じ町内会にいる人が絶対に嫌だと言って反対していることがあるんですね。こういうのは好ましくないんで、従って、「みんなで説得してくださいよ」と言って、県は一生懸命頼んだりしているんですね。そしたら、以外と上手くいくんです。だから、県民、市民、みんなで造る道という雰囲気やっていったら早く出来ると思います。これ数十年前、20年前ぐらいかな、役割分担をしていて、県の方の進捗はいいんで、それから県の方でも、実はここまだ決まっていなくてはいけなくと思うところが、国体を過ぎててもいくつか有ります。例えば、南港山東線を延ばして南インターに繋げる、でっかい道を作るというのは当然だし、松島本渡線を海南まで南下させないといけなくとか。尾花市長にずっと言われた話なんですけど、「42号一本に頼ってはいけませんよ」、「もう一つ要りますよ」と。そうだなと、最近切実に思っていて、次の計画でそういうことをやっていきたいと思っております、まだ決めておりませんけどね。だけど、市の方もたくさんもっとやることあるから、「あんた早くやれ」というだけでは済まないと思いますので、これからもう一回役割分担を見直す必要があるかな、と心の中で思っています。けどどうしたらいいか、理屈がいろいろあります。県としては、「和歌山市ばっかり大事にして」と言われると困るんで、説明がつくようにね、うまく理屈をつけてやっていけばいいじゃないかと思っています。また、秋葉山のところなんかですね、市でやっていただいているところが出来てきました。ありがたいと思っております。現実的に道を細くしてでも早くやろうということで非常に良いですけど、やり始めたら早く終わると言うことも大事なことになるので、やり始めたら「ぱっとやってしまう」という努力をしていただきたいと思っています。

貴志川線につきましては、さっきお話がありましたが、都市計画を上手くかねていけばいいのと、「乗ろう運動」を一生懸命にやらないといかん。県も一生懸命やっておりますですね、市でも「乗ろう運動」をですね、例えば存続を望む人は定期を買おうではないかということをやれば、収入も上がっていき、良いのではないかと。もうひとつは、小嶋さんの、和歌山にとっては大恩人ですけども、小嶋さんの主義主張は、公設民営なんですね。私は、いろいろと小嶋さんと話をして、考え方は分かるんだけど、やっぱり和歌

山市、和歌山県が施設を買ってしまいましたということになるとですね、ちょっとまた、「もういいか」といって、もう乗るのをやめようかなという人が出てくる恐れがある。だから、そういう人のことも考えて、事実上、その理想が和歌山県からサポートできているようにすれば良いんじゃないかといっ、そんなことを相談しております。それから乗入れの話も一生懸命やっていきたいと思っておりますが、実は民間企業の経営もあることで、ものすごくお金がかかりそうだし、大変ということですが、熱心に力を合わせて取り組みましょう。

それから、少子化対策ですが、そのとおりだと思いますし、特に和歌山大学などが山の上に行っちゃいましたが、まちなかに若い人が集っているの、いいんですね。それから学生さんにとっても刺激が多い方が、特に文科系にとっては、いいんですよ、と思うんだけど、まあ、行ってしまったことは仕方がない。従って何とかチャンスがないか、いつも考えております。

それから、教職員の人事権の移譲は、これは絶対に反対であります。何故かと言うと、和歌山市のためを思えばこれでもいいんです。和歌山市も40万人近くの人口があつて、それで例えば、和歌山市の教育委員会が公正な採用をやったりすると、まあ、和歌山県で100万人をベースにやるのと40万人をベースにやるのではあまり変わらないかな、というふうに思うんで、それはいいんですね。だけど、和歌山市を抜きにして、「それ以外のところへ行ってくれ」と言う、本当にちゃんと立派な人が教員に来てくれるのかな、というとなかなか辛いものがあるんですね。今どうしているかというと、県で一括採用しているんですけど、「何年間はちょっと僻地というところにも行ってね、その代わり希望も聞いて、お家が和歌山市ならいつかは和歌山市に戻ってそこで定着するようにするからね」とかいう人事をしていると思うんですよ。県の人事はトレードの元締めみたいなもので、それで、和歌山市の教育委員会から「こういう人材をください」と言われると、「ハイ」と言って行かして。まあ一種の合議制なんですね。その元締めみたいなものを県がやっているようなものです。従って、和歌山市に権限を移譲すると全体が上手く回らなくなる。いろんな行革の議論がありますが、これは愚かな議論であります。間違い。ほとんど教育者とも思えないような、教育者とは道徳的でなければならない。国の行革であろうと、教育委員会であろうと、教育の関係の審議会であろうと、非道徳的なことを言うようなことは全くの間違い。それを教育を考える和歌山市もね、自分のことだけではなくて他の人のことも、県を中心だから是非考えてもらいたいと思っております。それから若干の苦情を申し上げれば、後で資料を渡しますが、「行革で権限をどんどんあげます」、「財源もあげます」と言った時に、一番「嫌や」と言ったのが、過去の話ですが、和歌山市です。それでそういうこともあつてですね、これは欲しいかもしれませんが、これは副作用がある。残りのものは副作用が無い。県がしがまえているのではなく、どんどんあげたいと思っているので、是非おっしゃっていただければ、今からでもどんどん差上げます。まあ、人事権について和歌山県に和歌山市しか無ければ差上げます。

それから、防災対策ですが、これはですね、この間、発表させていただきました。実は、和歌山市も危機感があつてしかるべきではありますが、本当の深刻な危機感、和歌山市には実は本当は無いんです。だけど、たくさんの方がいるから、犠牲者を一人も出さないようにがんばらなければならない。でも、何故大丈夫かというと、和歌山市民の方は耐震を

きっちりやって、ちゃんと逃げて、教育とかそのための訓練とかをちゃんとやっていって、みんながちゃんとやればですね、一人も死なないはずなんです。だけど、財産は無くなりますけど。南の方へいくと逃げようと思っても逃げ切れない人がいるんですね。津波が早く来ちゃうんでね、それをどうやって地域の改造を含めて、全員が助かることができるようにするかがですね、今回の対策の目玉でした。それがですね、よく何万人死ぬぞと言うんですが、何万人死ぬぞと言って対策を示さない行政は、とんでもない悪いやつだと僕は思っております。和歌山県は愚かな類似品と一緒にされたら困るので、従って、9万人という数字は出したけど、そんなことはどうでもいい話で、それよりもゼロにしていこうのためにどうすればよいのかを考えていくのが、行政だと思っております。それでちょっと言いますと、何故そうなるかと言いますと、県は「9万人死ぬぞ」と言ったのですが、前提はですね、35%の人が実は昼間は5分後に、夜は10分後に逃げ始めると。それから40%の人が昼間は15分後、そして夜は20分後に逃げ始める。25%の人は全く逃げない。それで何人死ぬかということなんです。従って、ちゃんと自分で考えておけば、和歌山市の人であれば逃げることもさえちゃんとすればすぐにゼロになる。だけど、逃げ切れないところはちゃんと対策をしなければならない。では、和歌山市もだけどボーとしていけば良いかというと、例えば耐震とかをやっておかないとその前に死んじゃいますし、逃げなければやっぱり死んじゃう。そういうことだと思うので、そういう意味では、がんばっていかねばいけなと思います。それで、この間の対策でも申し上げましたが、津波防波堤ですね、これについては逃げ切れる所もちゃんとしていこうと思います。まさに小さい津波をはね返せるし、それから大きな津波には時間稼ぎができますし。ただ、全部をはね返せないから、非常に大きな津波、巨大地震であれば、時間稼ぎというイメージになろうかと思えます。時間稼ぎ、そこまで考えなくても十分時間があるかと思うんですが、それでもやっておいた方が良く。和歌山市も含めてきちんと全県的に防波堤の強化などをやっていきたいと思えます。

それから、土砂災害ですけど、和歌山県は、国の土砂災害対策に加えて県独自に急傾斜の対策をやってきました。県にも変な職員がいて、「そんなもんやめろ」と言ってですね、市民オンブズマンが「そうだそうだ、そんなもの止めろ」と言って来たりしたんですけど、「冗談じゃない」と言って跳ね返していたんですね。紀伊半島大水害の時に、その人の言うことを聞いていたら、ずっと犠牲者がいっぱい出ていますよね。「分かったか」と言いたいんですけど、そういう時は出て来ないですけど。特に和歌山市はですね、中小河川の氾濫がものすごく恐ろしいことだと、最近痛切に本当に思っております。尾花県土整備部長の時ですけど、中小河川の対策にものすごく力を入れるようになりましたが、そのうちのかなり多くの部分が和歌山市なんです。それで更になんですけど、尾花さんも活躍してくださったんですけど、和田川の流域も含めてですね、国営総合農地防災事業とそれから和田川でいうと床上浸水対策特別緊急事業を尾花さんが獲得してくださって、それを組み合わせて、安全対策が出来るようにやっているんですね。ただ、あれもだいぶ時間がかかるので、その前に水が来たらどうしようということでドキドキなんですけど。それと崖崩れなんかはこれからも防いでいかないといけないので、特に県単の急傾斜地なんかは、これからも使えるようにしています。前に「止めよ」と言われたんですが、「止めない」と言ってですね、使えるようにちゃんとなっていますから、そういうところも色々と相談し

て一番危ないところから対策していったらいいんじゃないかと思います。

避難路の話がありましたけれど、これはどちらかと言うと、要望よりも、市に私たちが要望したいな、と思っております。というのは、県の制度があつて、避難路を塞ぐような建物は、市のイニシアティブで、市が自分で問題を提起することができる形で、実は、最終的には強制執行ができるまでの制度を作っております。従つて、運用していただければ、大変かなりいいんじゃないかと思います。そうやって欲しいな、と。それと、国の助成金、特に大規模施設についてはごもっともなんでしょうけども、今のところは、「期限がくるから早くやれ」と言った方がいいんじゃないかと。はじめから延長したら、なんか油断してね、止めちゃうということになると困るんで、「早くやれ」というふうに言った方が良くて、来年になって、もしちょっと残っていたら、「残っているぞ」と国へお願いに行くという戦略ではないかな、と私は思いますけどね。

また、紀の川河川敷公園整備の件もご協力させていただきます。

それから、類似施設の連携・統合はごもっともでございます。工業用水道についてはですね、「そうか」といって今改めて思いました。で、大阪市なんかもあるので、私は、「そうか」ということを分かっていたんですけど、そういうことを教えていただきましたので、前提として考えていったらいいんじゃないかな、という風に思います。

それから、図書館もそうだし、市民会館とかね、これから耐震を市でやらなくてはいけない施設がたくさんあるので、そういう機能の分担も考えていいんですけど、ただその、やっぱり、行革とか、市の負担軽減とかで考えたらいけないので、要するに県民の利便とかニーズとか、そういうことからあまりそこを害さないようにするために、こういうことでええんちゃうの、というのがあったらどんどんやったら良いということで、一般論だけ申させていただきます。

今日は、私は何か言いましたけど、さっき教育委員会の人事の話なんかも駄目と言いましたが、あれだって別の解があるかもしれませんね。私が思いついてないような。そういうことでございますので、今日は言っただけで、あとはゴリゴリこれからお互い連絡して協力していったら良い。和歌山県はですね、副課長ぐらいを窓口にして、この1個1個の問題をやるかと思います。それで、リストは後で差し上げますから、「おまえ担当や、ちゃんと相談してやるんだぞ」と言っておりますので、そのぐらいのレベルでみっちりね、ご連絡をとってやったらいいんじゃないか。言いたいことを全部言つてね。そのうえで、それぞれの上にあげて、県庁として、あるいは市としての意思決定をやつて、最終的に上手くいくことになればいいな、という風に思っております。

県企画部長

今、知事が申しあげました市から提案いただいた各項目についてですね、リストを作っておりますして、これは県の副課長が担当するということで、今後の協議の窓口ということになっておりまして、そのリストをみなさんにお渡しします。知事の方から一括していろんな話をさせていただいたのですが、ちょっと厳しいお話もあったかと思いますが、市長から何かございましたらどうぞお願いします。

尾花市長

ありがとうございます。非常に踏み込んでいただいてありがとうございます。公開の場にしたのは、私の希望だったのですが、こそこそやるよりはいいかなと思って、公開

の場にさせていただきました。本当にいろんなことに対してご協力いただけるということです。ますますこれから希望を持って頑張っていきたいと思っております。教職員の人事権の問題は、案がありますので、副課長を通してやらせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

県企画部長

それではですね、県からの提案がございますので知事から申しあげさせていただきます。

仁坂知事

資料が少なくてね、真心がこもっていないんですよ。県が提案する資料は。申し訳ないと思っておりますが。6項目ぐらい、過去の話も含めて、露骨なことも含めて、言わせてもらいます。

第1はですね、まちなか再生で、第2は優良農地の確保なんですけど、これについては、もう議論させてもらったので、協力していったらいいな、と思っております。これは配布資料があるんですけど、そういうことでございます。

それから配布資料がない話をさせていただきますと、道路整備についてはですね、国体まで我々が協力してやっているものについては、先に言いましたように、出来るだけ急いで、出来るものは急いでね、期限まで3月に間に合えば良いとか、国体までに間に合えば良いとかではなく、工事をやっているときは、それ以前よりももっと市民生活を害しているところがあるんですよ。「よーい、ドン」と始まったら、バツとやってしまうのがいいんじゃないかと思えます。それから、南インターの件について、ちょっと、私は、ムツとしたことがございまして、申し上げますけど、この中の何人かの方が目撃者なんですけど、ある時に、大橋さんが部下を連れてお越しになって、「南インターを造りたい、造ってほしいと思うので協力してほしい」と言って。まだ民主党政権で『コンクリートから人へ』がかなり強かった時なんですよ。そういう風に言われました。私は、尾花さんとかと、いずれ造らなければならないな、と。バランスから言うと、海南市に2つあって、和歌山市によろやく2つになって、もう1個ぐらい。南にいっぱい空いているからあってもええな、と。それから交通の結節点だし、ええな、と言っていたんですよ。だけど、その時に、例えば、京奈和も造らなければいけない、南の延伸もしなければならん。それから補助金の観点から言うと、たくさんの都市計画道路を一気に解決しなければならん、ということが色々たくさんあって、「あれもこれもと言うと、「どっちが先か言ってみろ」と言われ、ちょっと意地悪されるよね、だから、しばらく市長さん黙っていませんか。いずれやらないといけないことですけどね」と。それからもう一つ考えておかなければならないことが、さっき尾花市長がちゃんと考えてくださってありましたけど、「ここにインターを造って道をつけたら、また中心市街地がしょぼしょぼになるということになりませんか」と。そのことについて、「市長さんは中心市街地の問題について熱心だからどういう風に解決されますか」ということを宿題と言って。それから接続の問題があるので、実は、「県の道路はこの近くまでいくことになっているから、そこで降ろせばいいんだけど、その接続を、タイミングをどう考えても慌ててはできません。どうせ平成29年、30年ぐらいになるでしょう。急いでやってもね。そうすると、今からわあわあ言っても、今からだいぶ先ですから、あんまり意味がないし副作用があるので止めませんか。しばらく黙っていませんか、どうですか」と言ったら、「そうね」という顔をしてお帰りになったんですが、1週間経っ

たら、突然、新聞に南インターを造ると出てね、なんだこれはという風に思った記憶があります。もっとムカッとしたのは、しばらくすると、例えば、三田か山東で、住民の人と話をしていると、「仁坂さんは南インター反対と止めているからなかなか出来ないんですが、何とかしてくれませんか」、と言われるものですから、「冗談じゃない。やるんだと言っているけど、ちょっと待てと言っているだけだよ」との話をすると、「なんだそうか」となって、「誰が言っているんだ」と聞くと、「市役所がみな言っているぞ」とか言ってね、ムカッとしていたんですね。誰が悪いかわかりませんが、そういうことが無いように、これからしたいな、お互いに誠実に対応していったらそれで良いということでもあります。それでもう一つ、市民としてムカッとしたのが、多分ね、このタイミングでは県に協力を求められない、と思ったんですよ、これ推測ですけど。それで市で調査費を付けて、それで「どう考えてもこれいいことはありませんよね」と僕らが言っていた南インターから市道に降ろすという計画をコンサルが作った。コンサルを使うのに1千万円ぐらい調査費が付いているんですね。もったいない、と。私も市民のうちやぞ。ムカッとした、と。そういうふうな過去の記憶でありました。先ほど言いましたように、協力してお互いに信頼関係を持って、協力して、役割もこれは慎重にやらないといけないけど、ちょっと変えてもいいんじゃないか、と。これで終わりというふうにする必要がないんじゃないかと思っていますので、皆さんとよく相談して決めたいと思っています。

それから、児童虐待対応に係る問題点についてはですね、これも、若干、言いたいことがありました。今はもう無いんですけどね。皆さんのところへ和歌山県が児童相談所のある意味で判断ミスで一人の子どもを亡くしてしまったという事件が起こった時の、検証結果、専門家による検証結果をお配りしております。この時に、明らかに児童相談所は結果から見れば判断ミスをした。だけど、私は、児童相談所を悪く言うつもりはないです。なんとなれば、見に行っていますけど、本当に一生懸命やっている。孤立無援で一生懸命やっている、ということなんですね。しかも今回のケースでいうと、64回、65回かな忘れたけど、それぐらいの試みをして、ようやくまあ大丈夫だろうと思ってやったら、それが判断ミスだった、ということなんですね。しかも、捕まったんですけども、起訴猶予になっているという事態の理由が分からなかったこともあるんですね。まあ、それで、悲劇が起こったんですけど、その時に、新聞によると、「もっと早く市役所に相談いただければよかったのに」と某市長が発言されたんですね。私は本当にすごく怒ったんですね。その時に怒ったら、市と県の責任のなすりつけ合いだ、という風に思われるので、ジッと我慢していました。それよりも将来のことを考えた方が良くから、どういうふうにやったらいいのか、そこに書いてあるとおりです。そのとおりに、県ができることは既に実施しています。例えば、検察庁との関係をもうちょっと改善しろという話になって、和歌山県の地検と児童相談所の間では、実は、起訴猶予なんかの理由をこっそり教えてあげるということに既になっているのですが、政府に頼みに行って、「そんなふうに必要なだったら中身を教えてあげても良いというふうなことにせよ」、と最高検から通達を出してもらったりしました。そんなことがあったのですが、問題は、児童相談所というものを誰が作るかという問題があるんです。先の施設の重複という観点からいうと、実は重複が解消されていて、和歌山市は、本来なら作っていなければならぬレベルだと思うんですけど、県で全部やっているから「いいや」ということになっている。それをどう考えるか、これを市の中で考

えていただければ良いと思います。一般的な相場の中で。我々は、和歌山市に無理に児童相談所を作れ、と勇気を持って言い難いのですが、そこは考えてもらっていいんですけど、少なくともあの局面において、児童相談所は引き受けて自分で色々やったんですけど、さらに様子を見に行くところまでやらざるを得なかったですね。そのところは、本来基礎自治体の仕事なんです。それを、頼り無かったので、「まあええわ」と言って、自分で行って、それが手薄となったんで、様子を見に行ったんですけど、こっちの中で面倒を見ているのが精一杯なんでね、そのやり方が生ぬるくて、それでいじめられているのを結局発見できなかった、ということなんです。ですから、せめて施設の話はとりあえず長期的な課題とするにしても、児童相談所がこういう判断のもとで「後の見張りを頼みます」と言った時はですね、市もいろんな組織をうまく動員して、窓口も決めてもらって、それを見ていただいて、それでまた問題があったら児童相談所を送り込ませたらいいんですけど、そういうことをしてくれたらいいなと思っています。

それから、その次は、風しんワクチンの助成制度の問題なんですけど、細かい話なんですけど、実は、和歌山県は皆さんを説得して、風しんワクチンについては全部の市町村、和歌山市を含む全部の市町村で県と市町村で半分ずつ出して、全部タダにしてあったんですね。ところが、国が追随してまいりまして、それで、陰性か陽性か先に判断することに補助金を出すというふうに言われた。和歌山市は、それに乗っかれて、そっちに、ある意味、乗り換えられたわけです。それはいいと思います。調べるのが大変だからね、みんないいことにしてあるんだけど、陽性の者までに注射するのがいいとは、なかなか論理的には言えない。陽性の人については、補助金は打ち切ります。陰性の人だけやりましょう、ということになったんです。ある意味では論理的です。だけど、市民生活を考えると、まあ一万円ぐらいの話ですけど、2回受けに行かなければならない。子育てして、子育てしてないかもしれませんが、ひょっとして上の子の子育てに忙しくしているかも、お仕事かもしれません。その人が受けに行くのは大変じゃないかなという気持ちもあります。僕が一番おかしいと思っているのが、和歌山市は、陽性の人には補助金を出しませんよ。だけど、県の制度は補助金を出すんですよ。県は別に出すことにしているのでいいんですよ。市が半分を出さないよ、というのは良いとしても、県の部分を代理でタダにしてあげて県からお金を出すという制度は残してくれたっていいじゃないかと思うんですね。ところが、うちは出さないから、そんな代理をする必要がありません、と。しかも、事務経費も出しているのに、断られちゃったんです。結果的には、陽性か陰性かわからない人が打ってもらった時はですね、その時は、市は出しませんよということになったので、県の部分をもらおうとしたら県庁に来ないといけないことになったんです。それはちょっと市民のことを考えていないのでは、と思います。請け負ってあげたらいいんでは、という風に思ったんです。それはやっぱりおかしいな、と私は思っております。それもたいした話ではないので、今は流行していないのでね、風しんがね。まあ、いいんですけど。

それから、地域見守り協力員というのがあります。これは、実は民生委員・児童委員と連携するボランティアの方に、一人暮らしの方がどっかで体を壊したりして、ひどいことになっていないかどうか見てもらう制度を県庁で作りました。民生委員・児童委員がそんなに数が多くないので、特に和歌山市では、見守らなければならない人がすごく沢山いるので、地域で見守り協力員を作って、例えば町内会とか、そういう人をお願いしていただ

けませんかと言って、県からお願いしている制度があるんです。これがですね、20市町ぐらいで、かなり熱心に民生委員・児童委員を加えて地域見守り協力員の方が町に頼まれてですよ、特に田舎の方で多いんですけど、やったださっているんですね。それで、和歌山市はですね、「ちょっと検討します」と言って、そのままとなっており、実は、実現していないんですね。和歌山市も、例えば、自治会等の連携もものすごくあると思うのでね、そういうことを頼んでくれないかな、というのが我々のお願いなんです。これもじっくり考えていただいてもいいんですが、市民のためになることですからね。そういうことを、我々からお願いしときます。ご検討いただければ、ありがたいと思います。

県企画部長

ご検討いただきたいということですけども、市から何かありましたら。

尾花市長

しっかり検討していきます。

県企画部長

終了時間まで、あと4分ぐらいですが、もし追加で今の議論の中で何かありましたら、他の方でも市の幹部の方も大勢お見えなんですけども、発言いただければと思います。

尾花市長

今まで風通しの悪い部分もあったようなんですけど、私も県に去年までおりましたのでそういうところは若干感じているんですけども、こういう場をきっかけにさせていただいて、これから県市で密な関係を構築させていただければと思います。確かに、独自路線を歩むような部分もあるし、かといって協力を当然すべき部分もあるし、そういったところについては、これから連携をさせていただければと思いますので、仁坂知事さん、是非よろしくお願い申し上げます。

仁坂知事

あの、誠にそのとおりだと思います。それから一言申し上げますと、歴史的にいうと、市役所と県庁がお互いに嫌いというのがどうもあるようで、私はわりと最近県庁に来た人だからあまりそういう気持ちがないので。もともと役人だし。そういう意味で、そういうのは止めようというふうに思うんですね。私は、尾花市長以外の職員の方も実は結構尊敬しております。その方々の能力はとっても高いのではないかと本当は思っております。あちこちでそういう経験をしました。本当です。だけど、私も役人でしたけども、そういう能力が出るためには、やっぱりいろんな刺激がいります。それで、役人は、ちょっと悪口なり言われるとそれで自分の人生が終わったみたいな感じになる人もいるんだけど、全然そんなことはありませんので、また、言い返せばいいわけですね。それから、更にですね、役人がそういう勇気を持てるようにするにはどうしたらいいのか、それは、実は、親分が最後に責任を取ってあげたらいいいんですね。そういうことなんです。それが駄目だったら、なかなかちょっと自分の身を自分で守らなければいかんからということになって、悪口言われたら大変だと言ってね、そういうことになるのですが。和歌山県庁は悪口の言い合いでございます。わたしも、あんまり汚い言葉では言われませんが、露骨に色々と、「ちょっとそれはおかしいのではないですか」とよく言われたりします。一番言い合った人が、県土整備部長であった、尾花市長でありました。そうでもなかったですけどね。そういう雰囲気をお互いつけていけばいいんじゃないかと。言いたいことを言わせてもらい

ますけど、それが全てではありませんので、大いに尊敬しながら、やり合っていけばいいんじゃないかというふうに思っております。

ありがとうございました。

県企画部長

はい、すみません。それでは時間がきましたのでこれで終わらせていただきます。先ほど申し上げましたように、市からいただきました提案事項については、各窓口を決めております。また、窓口を通じまして、いろんな形で連携を密にして課題の解決にあたって行きたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いします。

仁坂知事

そう言えば、僕たちばかりでしゃべるんじゃなくて、みんなでしゃべったらどうなの。

県企画部長

分かりました。次は、全員課題を与えて発表するという感じでやりたいと思います。

それでは、これで県市連携会議を終わらせていただきます。どうも今日はご苦勞様でございました。

ありがとうございました。